

平成31年 2月

Lusi Oka Wardhani 学位論文審査要旨

主査 梅北善久
副主査 景山誠二
同 林 一彦

主論文

Expression of the ID01/TD02-AhR pathway in tumor cells or the tumor microenvironment is associated with Merkel cell polyomavirus status and prognosis in Merkel cell carcinoma

(メルケル細胞癌では、腫瘍細胞または腫瘍微小環境でのID01/TD02-AhR 経路の発現が、メルケル細胞ポリオーマウイルスの状況や予後と関連する)

(著者：Lusi Oka Wardhani、松下倫子、岩崎健、桑本聡史、野中大輔、長田佳子、加藤雅子、北村幸郷、林一彦)

平成31年 Human Pathology 84巻 52頁～61頁

参考論文

1. Comparative analysis of biological sphingolipids with glycerophospholipids and diacylglycerol by LC-MS/MS

(液体クロマトグラフィー・タンデム質量分析法を用いた生物学的スフィンゴリピッドとグリセロホスホリピドやジアシルグリセロールとの比較分析)

(著者：小木曾英夫、谷口真、荒谷信一、青木真也、Lusi Oka Wardhani、山下優香、上田善文、岡崎俊朗)

平成26年 Metabolites 4巻 98頁～114頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はメルケル細胞癌における腫瘍細胞または腫瘍微小環境におけるTryptophan代謝に関連するIDO1/TDO2-AhR 経路の発現とメルケル細胞ポリオーマウイルス感染や予後などの臨床病理学的因子との相関を検討したものである。その結果、メルケル細胞ポリオーマウイルス陰性メルケル細胞癌と有意に相関するのは、腫瘍細胞でのIDO1高発現と腫瘍微小環境でのTDO2高発現であり、メルケル細胞癌の予後良好と相関するのは、腫瘍細胞でのIDO1低発現と腫瘍微小環境でのTDO2やAhRの低発現であることが判明した。本論文の内容は、ウイルス関連腫瘍病理学の分野で、腫瘍細胞や腫瘍微小環境におけるTryptophan代謝関連因子の発現と予後を含めた臨床病理学的因子の相関解析の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。